2026 年 10 月 20 日

関西学院千里国際中等部・高等部
2025 年度　学校評価（学校関係者評価）

2025 年度事業に関する事前資料に基づく学校評価委員会にて提示・共有された意見から事柄を抜粋・整理し、以下に記す。

構成員）
・井藤　眞由美　関西学院大学教職教育研究センター教授
・枝川　　豊　　関西学院高中部長　　［以上 50 音順］
千里国際中等部・高等部）
・難波　フランセス　関西学院千里国際中等部・高等部校長
・澤村　裕、小田　秀邦（以上、事務局）

項目 1．教育理念

- 直近の動きとして 2023 年度にキャンパス宗教主事を任用し、週一回、放課後に礼拝を守るなどしている。また、2026 年 2 月から千里国際キャンパスにおけるキリスト教主義教育について検討 WG を設置。学院の理念と千里国際キャンパス（千里国際中等部・高等部）の理念、今後の千里国際キャンパスにおけるキリスト教主義教育推進の可能性を探っている。現在の WG メンバーは、千里国際キャンパス統轄（コンビーナ）、千里国際中等部・高等部及び大阪インターナショナルスクール校長、宗教主事、事務スタッフである。式典のありかたについても検討が始まっており、今後に期待する。
- 教育の実践について考えるラーニングフェアが 2025 年度を含め、例年開催されている。2026 年度ではあるが、ラーニングフェア（2026 年 10 月 14 日開催）で見学した、特に宗教主事による授業にあっては聖書が傍らにあるなどキリスト教主義教育の進展を見ることができた。院内校としてやはり関西学院憲法に述べられるキリスト教主義教育は重要視してほしい。千里国際キャンパスの行動指針である「5 リスペクト」とは親和性があると認識しており、さらに理念として根付かせていくことが重要であろう。
- 理念として根付かせるには教員の努力が不可欠である。同じ教育目標に向かって協力すべきである。学院が属するキリスト教学校教育同盟の主催する行事や研修にも関心を持ち、院外のキリスト教主義学校（ミッションスクール）とも繋がりをもって推進すべきである。
- このことは、2025 年度学校評価（自己評価報告書）の「結びに」で、「統合」が 2026 年の最重要課題であると記されていることとも合致する。

項目 2．教育課程

- 先日のラーニングフェア（教育関係者及び受験生の保護者の皆さまを対象に授業公開、生徒の学び、そして対話を通して、ともに教育を考えるイベント）においても、入学時期の弾力化を担保しつつ、文系・理系の別なく生徒が自身で時間割をつくるとの仕組にインパクトを感じた参加者は多かったように思う。
- 学期完結制による、極めて自由度の高い教育課程は理想的と言える。学ぶ環境が異なる他の学校では導入が難しいもので、大阪インターナショナルスクールと共同学習を行う、帰国生受け入れ校としての特徴を持つ千里国際ならではのシステムと言える。
- 少人数の規模で授業が開講できていることは、自由度の高い教育課程であると言える。し

かし創立時から学校独自の教育課程を構築・展開してきたため、複雑化している現行の教務システムの見直しと再構築が必要である。

- 千里国際中等部・高等部は国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）認定校ではないが、設立時から認定校である大阪インターナショナルスクール(OIS) と共に歩んでおり、「探究的な学び」に圧倒的な強みがある。また、全ての生徒が、OIS 生とともに学ぶシェアード・プログラム（音楽、体育、美術）を通じて IB の理念に触れていることも特徴的である。2013 年に導入された、高校 2 年秋から IB のディプロマ・プログラムを履修できる制度も安定的に維持されており、IB を軸にした両校の繋がりの維持と更なる発展を願う。

項目 3. 学生生活

- キャンプや学年旅行など、大阪インターナショナルスクールの生徒と交流する機会が増えたこともあり、生徒が一層 Two Schools Together を実感できていることがアンケート結果から感じられる。
- スポーツ活動においてはシーズン制を導入している。バランスよく多彩な活動に取り組むことができ、学びとの両立において好ましい制度であると思う。さらには海外校との交流があり、海外を含めたフィールドスタディの機会も多いことは素晴らしいが、円安の傾向やチャイルド・プロテクション（CP）の強化（例：ホームステイではなくホテルステイ）により家庭の経済的負担が増えていることは懸念する点である。
- 生徒指導において、情報の共有をはやく、そしてチームであたることを徹底することは重要である。これまで以上に一層の充実を期待する。
- 一連の対応には、スクールカウンセラーも加わっているとのことであるが、スクールソーシャルワーカーなども加え、さまざまな専門的役割を持つ者が関わるのがよい。
- 中等部から高等部と、発達段階に違いがあるが、前後の年代も含めて関西学院の各学校を一貫した指導体制がますます重要になる。

項目 4. 入試制度

項目 5. 入試広報

- 「コロナ禍以降、海外に赴いての広報に替えて、オンラインでの学校説明会や SNS を駆使しての広報に工夫を凝らし、順調に展開できている。とは言え、直接の対話の機会の意義を考えると、一部、以前のように海外へ出向くことも検討の余地があるのではないか。
- 千里国際中等部・高等部の入試制度において、学校設置当初から帰国生を重視する方向は変わらない様子である。また現在において一般入試は中等部のみで実施しており、中等部から高等部を一貫して考える方向性は変わっていない。
- 国の就学支援金制度がさらに充実し、私学への関心は高まっていると言える。今後もさらなる展開を期待する。
- 校外説明会に積極的に参加しているが、関西学院千里国際中等部・高等部をはじめ、関西学院が設置する各学校へのコアなファンのみならず、千里国際中等部・高等部あるいは関西学院を知らない層、知ってほしい層にどうリーチしていくのか工夫も必要である。

以上